

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 41 号 平成 21 年 4 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張国守平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

三年間を振り返って

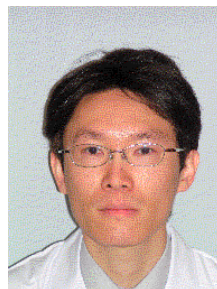
リハビリテーション科部長 櫻木 哲太郎



当院に赴任して今月で三年が経過しました。当初は当病院のシステムや地域の諸先生方の情報がわからないまま診療をしてきて、諸先生方には大変御迷惑をかけたことと思います。その後、診療をしていく中でこれまで多くの症例患者を紹介していただき、順に諸先生方のことが覚えられるようになりました。医師会の行事や千成会の懇親会などにて、地域の諸先生方との面識によりより一層の情報がわかるようになり大変地域連携がしやすくなったと思っております。当整形外科も毎年患者数も少しずつ増え、診療にまい進しております。また、ここ数年の間に近隣の病院間とのクリティカルパスの導入により入院患者の早期のリハビリや治療など診療の回転がよくなり、諸先生方からの紹介症例もスムーズに受け入れられるようになってまいりました。4月から当整形外科は4人体制(一人は後期研修)にて診療してまいりますが、これまで以上に頑張っておりますので、今までと同様に困った症例などがありましたら、お気軽に紹介していただいておりますので、今後もよろしくお願い申し上げます。

JSH2009について

循環器科副部長 後藤 隆利



先ごろ日本高血圧学会から高血圧治療ガイドライン 2009 が発表されました。高血圧は有病率が高く、循環器科はもちろん、内科、消化器科、呼吸器科、外科などの先生方も血圧管理をされている先生方は多いのではと思います。しかし日常診療で「一体どこまで下げればいいのか」とか「何を目安に管理すればいいのか」といった疑問が浮かんできます。また現在内服薬にはカルシウム拮抗薬をはじめ、多くの種類の降圧剤が使用できますが、どの組み合わせがいいのかも悩むところだと思います。今回のガイドラインでは降圧目標を4グループ(若年・中年者、高齢者、脳血管障害、糖尿病・慢性腎臓病(CKD)・心筋梗塞後)に分類し、また家庭血圧での降圧目標も示されました。例えば糖尿病やCKD、心筋梗塞後患者の家庭血圧降圧目標値はなんと125/75mmHg以下です。非常に厳しい目標値ですが、数々の大規模臨床試験から降圧によるメリットは証明されています。そこで降圧療法のポイントを列挙いたします。

- ① 心血管病抑制効果を得るためにはどの薬剤を使用するかよりもどれだけ血圧を下げることができるかにかかっている
- ② 薬剤はカルシウム拮抗剤、ACE阻害剤、ARB、利尿剤、 β 遮断剤のなかから選択し、単剤もしくは併用療法にて治療する
- ③ 降圧剤は1日1回が服薬アドヒアランス(一昔前のコンプライアンスのこと)改善のためには良いが、24時間持続した降圧のために、服薬時間を変更もしくは分割も検討すべきである
- ④ 少量利尿剤(主にサイアザイド系)を併用すると、強い降圧効果が得られることがあり、合剤の処方も検討してもよい

限られた紙面でガイドラインの全てを網羅することは困難ですので、今回診療のポイントとなる部分を中心に、簡単にご紹介させていただきました。詳細は医学雑誌やMRさんが持ってこられるパンフレットなどに記載されていると思いますので、是非一度目を通してみてください。

